



「国際交流員とともに、多文化共生社会を目指して」 —— 宮崎県日向市地域コミュニティ課

「リラックスタウン日向」

「日本のひなた 宮崎県」の北東部に位置する日向市は、1951年4月1日に県下で6番目の市として誕生し、2021年で市制施行70周年を迎えました。

豊かな自然に恵まれた本市では、国の天然記念物に指定された「馬ヶ背」をはじめとする日向岬の柱状節理や全国有数のサーフスポットである白砂青松の「お倉ヶ浜」などがあり、海岸線が織りなす景観は自然のつくり出した芸術ともいわれています。

「リラックスタウン日向」。全国に発信するために掲げたこのキャッチフレーズは、本市の温暖な気候や美しい自然、都会にはないゆっくりと流れる時間、人間味あふれる環境の中で、市民や本市を訪れる人がゆったりと、伸び伸びと穏やかに過ごしているまちのイメージをぴったりと表しています。

日向市の国際交流まちづくり

国際交流においては、本市は、1986年に中国山東省「濰坊市」と友好都市締結をしており、この間、現在に至るまで交流を続けています。

また、1992年は、JETプログラムによる国際交流員を初めて招致するとともに、「日向市国際交流まちづくり推進協議会」を設置するなど、本市の国際交流のまちづくりにとって記念すべき年となっています。

国際交流の推進に欠かせないのが、2019年8月に第13代国際交流員に着任したコンスタス・デイヴィッドさん。国際交流まちづくり推進協議会が主催する各種イベントの企画・立案のほか、保育園などへの訪問、市民向け英会話教室の開催など、市民の皆さんの国際感覚の醸成や異文化への理解を深めるために、活躍いただいています。

コロナ禍でも「交流」と「支援」!

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、本市においても、様々なイベントが中止などを余儀なくされました。

そうした中ではありましたが、コロナ禍でも対面での交流ができないか模索するなど、「with コロナ」の国際交流イベントづくりに取り組みました。

本市では、在住外国人が2017年の258人から2020年には406人と急激に増加しており、多文化共生社会の構築に向けた取り組みが求められています。

こうした状況を受けて、今年度は、在住外国人に対して「交流」と「支援」の2つの視点でイベントを企画・実施しましたので、いくつかご紹介します。

① 散歩 DE 日向満喫 (2021年10月23日)

本市の観光スポットである「お倉ヶ浜」を散歩しながら、併せて、海岸清掃(砂浜のごみ拾い)を行いました。

秋晴れの下、ビーチと海的美しさも相まって、本市の自然の豊かさを感じながら、参加者同士が自由に会話を楽しみ、気軽に交流する姿が見られました。



5カ国21人の参加者で「日向満喫」しました

② 市職員向け「やさしい日本語」講座

(2021年10月6日、20日)

窓口対応の多い市職員向けに、2回に分けて実施。日本語レベルも話せる言語も異なる在日外国人に対して、どのように伝えれば生活に必要な行政情報が正しく伝えられるのか、国際交流員が講師となって勉強しました。



③ 防災観光交流バスツアー (2021年11月27日)

市の防災担当職員の説明で、地震や津波の特徴、避難方法、日頃の備えなどを学習した後、実際にバスで避難タワーに行きました。また、「願いが叶うクルスの海」などの観光スポットも巡り、参加者同士で交流を深めました。ベトナムの方の参加が多かったため、英語ではなく「やさしい日本語」で交流することを心掛けました。



市内企業3社から外国人10名が参加。避難タワーにて

④ デイヴィッツクリスマス (2021年12月18日)

アメリカのクリスマスでよく見られる飾り物やクリスマスカードなどを作る親子での体験型イベントです。毎年、大変好評で、毎回場所を変えて開催するなど、各地域の子どもたちが参加しやすい環境づくりに努めています。

これからも国際交流員と共に

今後の目標について、国際交流員デイヴィッドさんに



デイヴィッドさんが作り方をやさしく教えます

インタビューしました。

「2022年8月で3年目の任用期間が終わります。4年目の活動としては、将来の国際交流員も引き継いでくれる事業を考えています。そういう意味からマイブームは、「やさしい日本語」です。英語圏出身の私ですが、英語だけに力を入れても非英語圏の住民のためにはならないと考えました。「やさしい日本語」の導入が進めば、日向市についての情報が分かりやすくなります。

市民の皆さんと外国人住民が、よりコミュニケーションがとりやすくなったら、日向市が誰にとっても住みやすい街になると思います。周りの日本人と話していたら「やさしい日本語って、よく分からない」とか「英語じゃダメなの?」と言う人も多かったです。

これが、市職員向けのやさしい日本語講座を開催するきっかけにつながりました。今後は、市民向けの講座を開いて、もっとその輪を広げたいと思います。

ほかにも、日本人住民に英語圏のことをがんばって伝えていきたいです。クリスマスやバレンタインだけでなく、食文化、イベントやアメリカの田舎の紹介もしてみたいです。

コロナ禍で、なかなか例年通りのことはできませんが、安全にできるアイデアを出して、小規模イベントや集まらずにできることにも挑戦したいと思っています。」

今後も、国際交流員と協力し、国際交流まちづくり推進協議会の皆さんとともに、地域と在住外国人のつながりや絆が深められるイベントを企画していきます。そして、それが多文化共生社会につながると考えています。